

ている介護ロボットなどについても紹介する予定です。第四十五回セミナーは、熊本森都心プラザにおいて、平成二十四年二月二十五日に「認知症を考える」と題して、本人にとっても、家族にとっても関心の高い「認知症」について、予兆的な症状や病態についての基礎知識、家族としての接し方や生活などを学びます。また、早期診断・治療体制の全国的なモデルとなった「熊本モデル」についても紹介する予定です。

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

平成二十二年度は、毎月二回発行される「あれんじ」全ての号に肥後医育振興会担当の記事を掲載しましたが、平成二十三年度は、熊本日日新聞社から支払われる執筆・監修料が大幅に減額されることになったため、本年度は、毎月第一土曜日発行の分十二回に限りのみ記事を掲載することになりました。そこで、純粋に医学医療関連の記事である「元気の処方箋」を掲載する回数を八回(四、六、七、九、十、十二、一、三月)、一方、周辺の学術記事である「熊遊学ツーリズム」を掲載する回数を四回(五、八、十一、二月)とすることにしました。なお、「元気の処方箋」の際の「子育て応援クリニック」と「慈愛の心医心伝心」の掲載、並びに、「熊遊学ツーリズム」の際

の「四季の風」と「熊本まつり探訪」の掲載という二頁分の基本構成は維持していくことにいたしました。

その中で、「熊遊学ツーリズム」(十一月号)では、「古城医学校」を取り上げることになりました。実は、明治三年(一八七〇年)細川護久公により開始された藩政の近代化の一環として「再春館医学校」が廃止され、翌四年(一八七一年)に西洋式の医学校兼病院(通称「古城医学校」)が、オランダ人医師マンズフェルトを迎えて開校・開院されてから今年(百四十年目)にあたります。一般教養教育機関だった「時習館」に替って熊本洋学校がアメリカ人教師ジェーンズを迎えて開校されたのも全く同じ経緯にあります。つまり、肥後の地が西洋近代化され始めてから百四十年目を迎えるということになります。その今年、三月十一日の東日本大震災に伴う福島原子力発電所の事故を受け、近代文明の見直しがしばしば主張されるようになりました。恐らく今後、近代文明の本質はなんなのか、近代文明を超える途があるのかということが長期間かけて議論されていくことと思えます。十年後の「古城医学校」設立五十年までには、近代医学・医療に対する客観的な評価も進められていくことでしょう。そこで、そのスタートを切る意味合いもあって、「あれんじ」十一月号の「熊遊学ツーリズム」では、「古城医学校」を中心に、肥後における西洋近代医学教育の曙といえる時期を改めて振り返ってみたいと思います。

常任理事(庶務担当) 山本 哲郎

「第二回熊本県医療人育成総合会議」の開催

三月十一日の東日本大震災は、われわれに自然の脅威を再確認させるとともに大災害時の医療体制の素早い構築と維持への備えに関し猛省を促しました。一体、東北地方の現場ではどのような対応がとられたのだろうか。類似の規模の大災害に熊本が見舞われたとしたら、今のわれわれに何ができるのだろうか。災害医学教育の現状は十分といえるのだろうか。どのような教育や訓練を学生たちに施しておかなければならないのだろうか。熊本において医療人教育に携わっている方達のほとんど全てが、このような自問に直面されたことと思います。そこで、本年十一月十九日午後一時から熊本大学医学教育図書棟で開催する第二回熊本県医療人育成総合会議では「災害医療―東日本大震災から学ぶ―」をテーマといたしました。

当日は、宮城県石巻市から石橋悟先生、齊藤雄康先生、そして大内佳子先生にお越しいただき、不眠不休で現場での医療にあたられた当時の生の体験内容をお教えいただくとともに、その際の熊本における後方支援体制構築の状況や、更には熊本県の災害医療対策の現状などについても知識を得ながら、日本の災害医療の実情を立体的に学びたいと思います。そして、学生教育を含めて今後の災害医学教育はどうあるべきかを考えるために、日本赤十字九州国際看護大学長の喜多悦

子先生に講演をお願いいたします。

災害医療および災害医学教育は、熊本の医療及び医学教育における盲点の一つだったのではないかと思います。東日本の多くの犠牲者の皆様方のためにも、この機会を熊本における災害医学教育の原点にできればと念じます。

二十三年度医学研究会・研修会等への助成を行う

平成二十三年度は、熊本大学に在学する教授・学生等が主催する次の五件の学会、研究会、研修会等に助成が決定しています。

- ・熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成 九月一日〜三月三十一日
- ・本九祭・医学展 十一月五日〜六日
- ・蕃滋祭(薬学展) 十一月五日〜六日
- ・第二十七回熊本医学・生物科学国際シンポジウム 十一月二十三日
- ・第十二回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ 日程未定

第二十七回熊本医学・生物科学国際シンポジウム「Plasma proteins: its function and toxicity」開催のご案内

私どもの教室では、熊本に世界的な患者フォーカスのある家族性アミロイドポリニューロパチー(FAP)の研究を